

5 . 用語の解説

本章では、第1章から第4章において使用した用語について解説を行う。

用語 (アイウエオ順)	解 説
あばら筋	鉄筋コンクリート梁の上下主筋を囲んで巻いた鉄筋。
アンカーボルト	構造物の柱や土台をコンクリート基礎に定着するために基礎に埋め込んで用いるボルト
エキスパンション ジョイント	温度変化による伸縮、地震時の振動性状の違いなどによる影響を避けるために、建築物をいくつかのブロックに分割して設ける相対変位に追従可能な接合部。
N値	地盤の標準貫入試験において、63.5kg のハンマーを 75cm 自由落下させ、先端が 30cm 貫入するのに要する打撃回数。地盤の固さを表す指標となる。
偏在荷重	構造物が外部から受ける力を荷重といい、この荷重がアンバランスであること。
可とう継手	たわみ継手。配管の変位、伸縮、振動などを吸収できる可とう性のある継手。
間隙水圧	土中の間隙に存在する水による圧力。
グラウト	地盤、各種構造物の空げき、目地、ひび割れなどにセメントペースト、モルタルなどの結合材料を注入あるいは充填すること。
剛性	外力が作用する構造物または構造部材の弾性変形に対する抵抗の度合い。「剛さ」ともいう。
小屋組み	比較的大張間の構造物に用いられる架構。屋根自重や屋根面に作用する風圧力、積雪荷重などの外力を柱や壁に伝える。
座屈	構造部材が外力を受けたとき、その外力が単調増加してゆくと、ある点で急にいままでの変形様式を変える様式をいう。
主筋	鉄筋コンクリート部材で、軸方向力、または曲げモーメントを負担する鉄筋。
伸縮目地	躯体、仕上げ材が地震などの振動、温度および湿度の変化、不動沈下などで生ずる挙動による応力を緩衝するために設けられる目地。
伸縮継手	温度変化や相対変位による配管の軸方向、軸直角方向の変位や変形角を吸収し、配管の破壊を防止するための継手。
スラブ	鉛直荷重を支える床版。 2重スラブとは、ある空間を挟んで床板を二重に張った床。防音、防寒、配線、配管などのために用いられる。
せん断	物体に外力が作用した場合、物体内部の任意の面を境としてその両側の部分が相互に逆方向にずれようとする現象。
耐力壁	鉛直荷重または水平力に抵抗させる目的で造られる壁体で間仕切り壁と区分される。
地階	床が地盤面下にある階。

用語 (アイウエオ順)	解 説
地中梁	基礎梁。構造物を強固にするための梁。最下階の柱の脚部を繋いで、柱脚の移動、沈下、回転を拘束する。木造建築でも鉄筋コンクリート造の基礎梁を設けることが多い。
直接基礎	上部構造からの荷重に対して杭などを用いずに基礎板から直接地盤に伝える基礎。
束立形式	伝統的方法による木造の最下階床。束石の上に束を立て、大引を支えその上に根太を架けて床を張る。
定着	構造物同士あるいは構造物に他の物を繋結すること。例えば、鉄筋端部をコンクリートに、機械をコンクリート構造に繋結すること。
布基礎	直接基礎の一種。壁下に設ける場合には壁の長さ方向に連続した同一断面の基礎とする。
ハンチ	梁せいあるいは梁幅を梁の端部で柱に向けて直線的に大きくした部分。
控壁	長く連続した壁の強度、剛性を増すために間隔をおいて壁から直角に突出してつくる壁。
フーチング	基礎の底版部分。
不同沈下	構造物の基礎の沈下が一様でなく、場所により異なった沈下量を示すこと。
不飽和	土中の間隙に部分的に水が存在している状態。(不飽和土 = 不飽和状態にある土)
べた基礎	直接基礎の一つ。建築物の底面積全体を占める板状の基礎。
飽和	土中の間隙がすべて水で占められている状態をいう。
補強コンクリートブロック塀	鉄筋により補強されたコンクリートブロックによる塀
摩擦杭基礎	杭の周面摩擦力(土とくいとの接触面の摩擦によって生ずる力)にその支持力を期待している杭。
柵(ます)	屋外排水の合流点、分岐点、起点または管径、流量の変化しやすい所に設ける掃除・点検用装置。排水柵という。

< 参考文献 >

- ・ 建築大辞典(彰国社)
- ・ 建築学用語辞典(岩波書店)